

農業者年金

農業者年金は、農業の経営主だけでなく配偶者や後継者など、家族内の農業従事者も広く加入できます。

農業者年金に加入できるのは、次の3点を満たす人です。

- ①国民年金の一号被保険者
- ②年間60日以上農業従事者
- ③20歳以上60歳未満の人

少子高齢化時代でも安心の年金

農業者年金は、自分の年金原資を自分で積み立てる加入者・受給者の数に左右されにくい積み立て方式の確定拠出型の年金です。

自分が必要とする年金額の目標に向け、経営状況に応じて保険料が自由に決められ（月額2万～6万7千円）、老後の生活設計に応じて保険料が見直せます。

80歳までの保証付き年金

農業者年金は生涯支給されます。仮に加入者・受給者が80歳前に亡くなった場合でも、死亡した翌月から80歳までに受け取れるはずの農業者老齢年金が、死亡一時金として遺族に支払われます。

最長20年間も、保険料補助がある

一定の要件を満たす認定農業者には、国から月額最高1万円の保険料の補助があります。保険料の補助が受けられる期間は、通算して最長20年間（補助額は最高216万円）です。

農業者年金の支給試算を無料で郵送サービス

農業委員会では、加入年齢・納める保険料に応じた農業者年金の受取額を試算するサービスを始めました。近くの農業委員会事務局まで。

農業者年金 家族経営協定



農業委員会の君嶋主事

おすすめ隊



農政課の伊佐野主査

農家の人にお勧めしている農業者年金と家族経営協定について、町農政課と農業委員会の担当職員が、紹介します。

町農政課農政係 〔8028（67）6053〕
町農業委員会事務局〔8028（67）6047〕

家族の経営協定

魅力的な農業は、 家族内の話し合いから

将来性のある持続的な農業経営を進めるには、家族内の話し合いの積み上げが出発点となります。

家族一人ひとりが経営と生活の現状をつかみ、目標やその実現のための具体的な取り組みをはっきりさせることが大切です。

四つの視点から 話し合いをする

- ①作業環境の向上
○給料や収益の分配方法と金額○休日や休憩時間○快適な作業環境づくりや安全対策。
- ②円滑な世代交代

なぜ文書にするの？

暗黙の了解？決めたことでも、月日がたつとあいまいになるものです。文書にすることで協定内容がはっきりし、一人ひとりの自覚が高まります。見直すときにも役立ちます。

農業者年金、 ここがポイント!!



- ①農業従事者が広く加入できる年金
- ②国民年金の不足を補う安心の上乗せ年金
- ③少子高齢化時代に強い年金
- ④保険料を自由に決められる年金
- ⑤所得税・住民税が節税できる年金
- ⑥農業担い手には国庫補助がある年金
- ⑦魅力の運用、年平均利回り5%の年金
- ⑧町独自で保険料を補助する年金

家族協定、 ここが重要!!



- ①家族みんなが経営に参画する
みんなで農業を担っているという考え方に立つことが大切です。
- ②後継者の自立をバックアップ
円滑な世代交代のため経営移譲の時期や方法をはっきりさせましょう。
- ③女性農業者の地位向上
お母さん・若妻さんの通帳をつくり、農業、家事労働に応じた給料を支払いましょう。
- ④青色申告など経営管理の近代化

こうして、農業者年金に決めました



関口斗央さん
(芳志戸)

保険料に5割の補助

少子高齢化で国民年金制度も不安視され、なにか良

い個人年金はないかと考えていたところ、農業者年金は国から保険料支払いの支援（補助）があると聞きしました。農家には退職金がありません。子どもが生まれたこともあり、老後に子どもに負担をかけないためにも農業者年金に決めました。



高塩峯子さん
(下高根沢)

本当に有利な年金

農家はサラリーマンに比べ国民年金だけでは、老後

が不安と思い、上乗せ年金をと考えました。農業者年金は積立方式で安心です。経営状況によって自分で自由に掛け金を決められます。保険料は全額が社会保険料の控除となり節税にもなり、農業者にとって本当に有利な年金です。



平石光矢さん
(下延生)

将来の見通しが立つ

6年前、勤めをやめて農業につきました。農業者は

サラリーマンとは違い、定年や退職金がありません。農業者年金は、国の補助はあるし、積み立てた分は年金として戻ってくるなど有利な面があります。農業者年金は積立方式の年金なので将来の見通しが立てられます。



綱川久美子さん
(東高橋)

農業の責任を共有

農村生活研究グループの勉強会で家族協定を知り、

その考え方にとても共感し、息子の就農を機に母と子で協定を結びました。それにより作業の分担、給料制など具体的に経営を把握できるようになりました。互いの立場を理解し、農業に対する責任を共有できるのではないのでしょうか。



酒井紀之さん
(下高根沢)

妻との共同経営

忙しく休日のない農業でもいけないと思っていまし

た。農業経営について、妻にも知ってもらい、経営改善や役割分担について言葉だけでなく、文章に残しておこうと考えました。生活設計や子どものこと、経営の問題点などを家族で話し合うきっかけとなりました。家族の食事会や外出が多くなりました。



豊田陽子さん
(下延生)

子どもの就農を機に

子どもが農業についたのを契機に家族協定を結びま

した。どのように農業経営をしていくのか、いろいろと家族の中で話し合い、考え、農作業をしていきたいと考え約束事を文章にしました。安全安心な食物、米・麦・大豆をつくり、もう少し規模拡大をしていきたいと思っています。